メンターに聞く

お話を聞いた人

有川淳さん

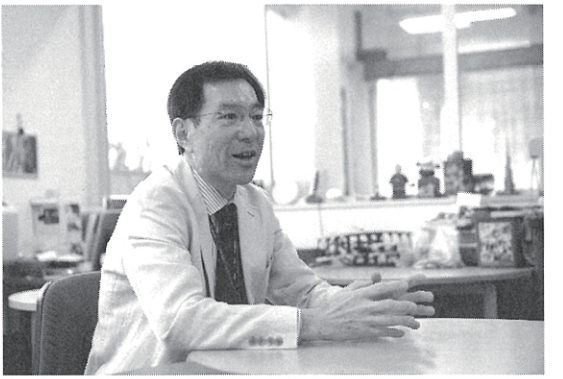
自主性を引き出す伴走役

――学校からFLLに参加することの価値はどんなことでしょうか？

学校だと、チームメンバー全員が同じ場所に毎日通っているという良さがあるのではないでしょうか。その日できなかったことがあっても、次の日にまた別のアイデアを試すことができます。そういったチームでの試行錯誤のしやすさは、チームの団結力を高める上でも重要だと感じており、学校から挑戦するメリットのひとつだと思います。また、教科科目のなかでは触れられない、大人ですら知らない新しいことが毎年テーマになることも魅力だと思います。大人でも先回りできないので、生徒たちが自分で動くことにつながります。

幸いなことに、玉川学園は総合学園ですので、大学も研究施設もあります。テーマに近い専門家がキャンパス内にいる場合は学園のリソースを活用します。去年は、環境技術センターという、学園内全ての上下水道や給水システムを管理している会社を訪問しました。身体がテーマの年は、

有川さん

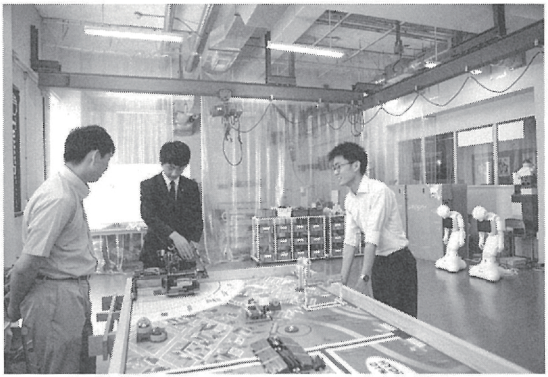


キャンパスにあるMRIを保有している施設に見学に行きました。また、生物と物理の先生にインタビューを行うなど、他の科目の先生とも積極的にコミュニケーションをとります。

――生徒のみなさんに接するとき、心がけていることはありますか？

子どもは言われた通りにやるだけでは学べません。「わかんない！」「困った！」と言われても、私は「何がおかしくてこうなるのかな？」「なんでだろうね？」と聞き返します。そうすると「なんでだろう？」と生徒たちも本気で考えます。

指導するメンターはプログラミングのプロである必要はなく、生徒にたくさん考えさせる質問をすることが大切なのではないかと思います。そもそも私は英語が専門なので、自分もプログラミングについては本当にわからないこともあります。ただロボットが動いているのが純粋にたのしくて、生徒の思い通りにロボットが動いているのを見ると本当に感動します。なので、



ロボット部の
部室にて

生徒と同じ目線でロボットに向き合い、一緒に本気で考えることができるんです。そうするうちに「ああそうか！」と生徒とひらめく瞬間があったり。基本的に、大会本番では想定外のことが起きても、生徒が自分たちで判断し行動しなければなりません。そのためにも、生徒自ら考えるくせをつけることが本当に大事です。